

写初日 真期本 史

関東編

*History of Early Japanese
Photography: Kantō Region
Images of Japan, 1853–1912*

December 1, 2020–January 24, 2021

令和2年12月1日(火)―令和3年1月24日(日)

本展は日本の初期写真史を取り上げる「関東編」であるが、冒頭には世界写真史における初期写真技術が重点的に展示されている。近年のデジタル技術の大いなる発達、我々が日々行う“写真を撮る”という行為を、過去のそれとは劇的に変えてしまった。もはや撮影された写真は支持体の上に固定されることも稀であり、初期の技術を想像することも難しくなっている。本展の冒頭の展示は、そのような時代の中で、初期写真を支えた技術の解説を目的としたものである。幕末明治の写真家たちが使った技術は現代人の想像を遥かに超えたものかも知れないが、その意義と初期写真の価値を伝えることが本展覧会の目指すものである。

高橋則英 展覧会監修者 日本大学藝術学部写真学科教授

This exhibition is about the early history of photography in Japan, yet much of the first section is given over to an explanation of early photographic techniques. Thanks to advances in digital technology, taking pictures has become a part of our daily lives. Yet the way we take pictures today is so different from the past that it is almost impossible for us to imagine the complex technologies that 19th c. photographers had to master. Communicating the complexity of that technology, along with the value of early photographs, is the foremost aim of this exhibition.

Takahashi Norihide

Exhibition Supervisor and Professor, Department of Photography, College of Art, Nihon University

主催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

会場 東京都写真美術館 3階展示室

Tokyo Photographic Art Museum, 3F

Organized by the Tokyo Metropolitan Government, the Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture, the Tokyo Photographic Art Museum, The Yomiuri Shimbun and The Japan Association of Art Museums.

Supported by Lion Corporation, Dai Nippon Printing Co., Ltd., Sompo Japan Insurance Inc.

and Nippon Television Network Corporation.

第一章 初期写真抄史

A Brief History of Early Photography

1-1 《アメリカン・ダゲレオタイプカメラ（ルイス・タイプ）》

1850年代初頭 ガラス、鉄、真鍮、木

470×195×220

東京都写真美術館

Lewis-style daguerreotype camera, American

early 1850s / Glass, steel, brass, wood

470 × 195 × 220

Tokyo Photographic Art Museum

1-2 《ボコタ寺院の眺め》

ジャン＝バプテスト・ルイ・グロ

1842年 ダゲレオタイプ 150×200

東京都写真美術館

View of the cathedral in Bogota

Jean-Baptiste Louis Gros

1842 / Daguerreotype / 150 × 200

Tokyo Photographic Art Museum

1-3 《ダゲレオタイプマニア》

テオドール・モリセ

1839年 石版画 252×352

東京都写真美術館

Daguerreotypomanie

Theodore Maurisset

1839 / Lithograph / 252 × 352

Tokyo Photographic Art Museum

1-4 《女性像》

ルイ＝オーギュスト・ビソン

1840年代 ダゲレオタイプ 104×80

東京都写真美術館

Portrait of a woman

Louis-Auguste Bisson

1840s / Daguerreotype / 104 × 80

Tokyo Photographic Art Museum

1-5 《1841年6月10日に王立協会へ提出された

カロタイプとフォトジェニック・ドローイング・プロセスの論考》

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット

1841年 論考 243×193

東京都写真美術館

The Process of Calotype Photographic Drawing,

communicated to the Royal Society, June 10, 1841

William Henry Fox Talbot

1841 / Paper / 243 × 193

Tokyo Photographic Art Museum

1-6 《（タルボットの次女、ラザモンドの肖像）》ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット
1844年 紙製ネガ原板 90×75
東京都写真美術館

Untitled (Portrait of Rosamond)

William Henry Fox Talbot
1844 / Paper negative / 90×75
Tokyo Photographic Art Museum

1-7 《（タルボットの次女、ラザモンドの肖像）》ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット
1844年 単塩紙 90×75
東京都写真美術館

Untitled (Portrait of Rosamond)

William Henry Fox Talbot
1844 / Salted paper print / 90×75
Tokyo Photographic Art Museum

1-8 《ロンドン万国博覧会のクリスタルパレス》トマス・ウィリアムス
1851年 ダゲレオタイプ 78×65
東京都写真美術館

Crystal Palace, Great Exposition, London

Thomas Williams
1851 / Daguerreotype / 78×65
Tokyo Photographic Art Museum

1-9 《スライディングボックス型カメラ》不詳
1855年 ガラス、鉄、真鍮、木 325 (240) ×168×175
横浜市民ギャラリーあざみ野

Sliding box camera

Unknown
1855 / Glass, steel, brass, wood 325 (240) ×168×175
Yokohama Civic Gallery Azamino

1-10 《スライディングボックス型カメラ》不詳（英国製）
1850年代 ガラス、鉄、真鍮、木 395×175×180
小林泰人フォトグラフィック・コレクション

Sliding box camera

Unknown (Made in England)
1850s / Glass, steel, brass, wood 395×175×180
Kobayashi Yasuhito Photographic Collection

1-11 《デュブロニ No.2》G.J. ブルダン
1864年 ガラス、鉄、真鍮、木 248×172×120
小林泰人フォトグラフィック・コレクション

Dubroni No. 2
G.J. Bourdin
1864 / Glass, steel, brass, wood 248×172×120
Kobayashi Yasuhito Photographic Collection

1-12 《バラクラヴァの鉄道小屋と作業場，1856年4月5日》ロジャー・フェントン
1856年 鶏卵紙 209×250
東京都写真美術館

Railway Sheds and Workshop, Balaklava, April 5, 1856
Roger Fenton
1856 / Albumen print / 209×250
Tokyo Photographic Art Museum

1-13 《名刺写真用6眼カメラ》H・スクワイア社
1860年 ガラス、鉄、真鍮、木 280 (215) ×210×300
横浜市民ギャラリーあざみ野

Camera for carte de visite photographs

H. Squire & Co.
1860 / Glass, steel, brass, wood 280 (215) ×210×300
Yokohama Civic Gallery Azamino

1-14 《（8分割した画面でとらえた少年像）》アンドレ＝アドルフ＝ウジェーヌ・ディスデリ
1864年 鶏卵紙 199×231
東京都写真美術館

(Uncut portraits of a boy, 8 on a single sheet)

André Adolphe Eugène Disdéri
1864 / Albumen print / 199×231
Tokyo Photographic Art Museum

1854年11月、アンドレ＝アドルフ＝ウジェーヌ・ディスデリ (1819–89) が名刺写真 (cartes de visite) の制作方法で特許を取得した。それ以前からお互いを認識する手段として写真を送り合う風習が生まれていた。しかし、1枚の原板を6枚から12枚に分割して撮影し、小さなプリントを制作する名刺写真の発明により、大幅なコストダウンが可能になり、市場が一気に拡大した。

ディスデリの名刺写真の撮影には、No. 1-13のような複数のレンズが予めカメラに設置された特殊なカメラが使われた。すべてのレンズをカバーせずに撮影してレンズの数だけ同じポーズの写真を撮影することも、一部のレンズだけカバーせず、残りの部分をカバーして撮影することを繰り返すことで、別々のポーズの写真を一枚の原板に撮影することもできた。このころ使用されていたコロディオン湿板方式は、撮影できる時間が短いため、複数回の撮影に掛かる時間を短縮するため、このような器材が使われた。

すでに写真を利用していた層の人々がより大量に消費する方向へ導くことが、当初のディスデリの思惑だった。しかし、大幅なコストダウンがはから

れたことで、この思惑が的中しただけに留まらず、それまで肖像写真を制作しなかった層を取り込むことに成功した。また、広く普及したことにより、名刺写真は、知人の肖像だけでなく、貴影や風景、異国の風俗、歴史画の複写など、階級や時代を超える視覚資料として写真を活用する新たな文化となった。

なお、No. 1-15は徳川昭武が万国博覧会のためにパリを訪れた際にディスデリの写真館で撮影したものである。

1-15 《徳川昭武像》アンドレ＝アドルフ＝ウジェーヌ・ディスデリ
慶応3年 鶏卵紙 105×63
明治大学図書館

Portrait of Tokugawa Akitake
André Adolphe Eugène Disdéri
1867 / Albumen print / 105×63
Meiji University Library

1-16 《ローラー・ブラインド・シャッター（ソルントン・シャッター）》ソルントン・ピッカード
1880年代 鉄、真鍮、木 140×100×25
横浜市民ギャラリーあざみ野

Roller blind shutter (Thornton shutter)
Thornton Pickard
1880s / Steel, brass, wood / 140×100×25
Yokohama Civic Gallery Azamino

1-17 《イーストマン乾板》イーストマン・コダック・カンパニー
ゼラチン乾板 120×95×30
横浜市民ギャラリーあざみ野

Eastman extra-fast silver bromide gelatin plates
Eastman Kodak Co.
Gelatin dry plate / 120×95×30
Yokohama Civic Gallery Azamino

1-18 《ゼラチン＝臭化銀 超高速乾板》J・ジュグラ
ゼラチン乾板 140×193×33
横浜市民ギャラリーあざみ野

Extra-fast silver bromide gelatin plates
J. Jougla
Gelatin dry plate / 140×193×33
Yokohama Civic Gallery Azamino

1-19 《男性像》バレル写真館
1880年代 ゼラチン・シルバー・プリント 166×108
横浜市民ギャラリーあざみ野

Portrait of a man
Burrell & Co. Studio
1880s / Gelatin silver print / 166×108
Yokohama Civic Gallery Azamino

1-20 《慎兵衛（清太郎）像》ハーベイ・ロバート・マークス
嘉永4–5年頃 ダゲレオタイプ 153×127
川崎市市民ミュージアム

SIMPAY (Portrait of Seitarō)
Harvey Roberts Marks
c. 1851–52 / Daguerreotype / 153×127
Kawasaki City Museum

1-21 《岩藏（岩吉）像》ハーベイ・ロバート・マークス
嘉永4–5年頃 ダゲレオタイプ 153×128
川崎市市民ミュージアム

EWATHO (Portrait of Iwakichi)
Harvey Roberts Marks
c. 1851–52 / Daguerreotype / 153×128
Kawasaki City Museum

1-22 《黒川嘉兵衛像》エリファレット・ブラウン・ジュニア
嘉永7年 ダゲレオタイプ 115×83
個人蔵・日本大学芸術学部管理作品

Portrait of Kurokawa Kahee
Eliphalet Brown Jr.
1854 / Daguerreotype / 115×83
Private collection (entrusted to Nihon Univeristy, College of Arts)

1-23 《黒川嘉兵衛像『ペリー提督日本遠征記』より》フランシス・ホークス
1856年 書籍 240×295×65
東京都写真美術館

Kuro-Kawa-Kahai, Prefect of Simoda, from “The Narrative of the Expedition of an American Squadron to the China Seas and Japan: performed in the years 1852, 1853, and 1854, under the command of Commodore M.C. Perry, United States Navy, by order of the Government of the United States.”

Francis L. Hawks
1856 / Printed material / 240×295×65
Tokyo Photographic Art Museum

1-24 《川本幸民の妻・秀子像》川本幸民
文久元年 アンブロタイプ 81×67
日本学士院

Portrait of Kawamoto Kōmin's wife Hideko
Kawamoto Kōmin
1861 / Ambrotype / 81×67
The Japan Academy

1-25 《川本幸民像》川本幸民
文久元年 アンブロタイプ 67×60
日本学士院

Self-portrait (Kawamoto Kōmin)
Kawamoto Kōmin
1861 / Ambrotype / 67×60
The Japan Academy

1-26 《『遠西奇器述』》川本幸民
嘉永7年 書籍 263×183×12
東京都写真美術館

Ensei kikijutsu (*“Novel Devices from the Distant West”*)
Kawamoto Kōmin
1854 / Printed material 263×183×12
Tokyo Photographic Art Museum

『遠西奇器述』は、嘉永7 (1854) 年に薩摩府蔵版として刊行された。薩摩藩の侍医川本幸民 (かわもと・こうみん、1810–71) による「朝夕の講習の余話」の口述を門人が筆記した西洋近代諸科学技術の解説書である。「直写影鏡ダゲウロテービー」、「傳信機テレグラーフ」、「蒸氣機ストームウエルキトイグ」、「蒸氣船ストームシキップ」、「蒸氣車ストームワーゲン」の5つがまとめられている。当時、写真が電信や蒸気動力などと並ぶ最先端の科学技術であり、さらに冒頭で取り上げられていることから、写真への関心の高さを伺うことができる。

「ダゲウロテービー」と標記したダゲレオタイプの解説は、完成された技術が語られている。ダゲレオタイプは当初、ヨウ素の蒸気により感光性を与えていた。公表の翌年、臭素の蒸気を使って感度を上げる方法が発表され、露光時間が短縮されて実用的な技術になった。本書でも実用的なプロミウム (臭素) を使った方法が述べられている。また別の箇所には画像のコントラストが高くなり、画像の金属板への付着度も上がる金調色を施す方法に触れている。これも1840年に発表された技法である。これらのことから、この解説は単なる紹介ではなく、本格的で実際のな技術解説であることが分かる。

1-27 《外国奉行たち》ウィリアム・ナソー・ジョスリン
安政5年 鶏卵紙 101×140
東京都写真美術館

Japanese Commissioners
William Nassau Jocelyn
1858 / Albumen print / 101×140
Tokyo Photographic Art Museum

撮影者は、日英修好通商条約を締結するために日本を訪れた第8代エルギン卿 (ジェームス・ブルース、James Bruce, 8th Earl of Elgin and 12th Earl of Kincardine、1811–63) 率いる使節団の書記を務めた人物である。本作は条約締結後に江戸で制作されたと考えられる。これ以前にペリー艦隊のエリファレット・ブラウン・ジュニアによる作例や、日本人によって初めて制作された写真はあるものの、いずれもダゲレオタイプである。本作は開港以前に制作された写真でありながら、鶏卵紙にプリントされている。日

本において制作された、もっとも早い鶏卵紙の作例であるといえることができる。

1-28 《大築尚志像》オーリン・フリーマン
万延元年 アンブロタイプ 70×80
沼津市明治史料館

Portrait of Ōtsuki Takayuki
Orrin Freeman
1860 / Ambrotype / 70×80
Numazu City Archives of Meiji History

1-29 《横井小楠像》鶴飼玉川
文久元年 アンブロタイプ 109×82
個人蔵・横井小楠記念館管理

Portrait of Yokoi Shōnan
Ukai Gyokusen
1861 / Ambrotype / 109×82
Private collection (entrusted to Yokoi Shōnan Memorial Hall)

1-30 《神学校生徒》深沢要橘
明治11年 鶏卵紙 350×428
明治学院歴史資料館

Divinity schools students
Fukazawa Yōkitsu
1878 / Albumen print / 350×428
Meiji Gakuin Historical Museum

深沢要橘 (ふかざわ・ようきつ、1847–1914) は、駿河国駿東郡沼津（現在の静岡県沼津市大手町）の出身。元治元 (1864) 年に上京し、蘭方医・杉田玄瑞に師事した。慶応元 (1865) 年頃、薬研堀で開業した日本初の写真師・鶴飼玉川 (うかい・ぎょくせん、1807–87) と知り合い、写真術を志した。この間に、幕府の開成所に入り、文部省 (文部科学省) の前身であるとともに東京大学の源流諸機関の一つとされる大学南校に改組されてからも引き続き英学を修めた。のち同校教師になり、神田淡路町の共立学校教頭となって英語や写真化学を教えた。明治4 (1871) 年には天皇へ写真術を進講したことでも知られる。翌年、北庭筑波の依頼で英書を翻訳した写真技術を東京の写真師たちに講義し、これを『脱影夜話』『フォトグラフィ』にまとめ、明治10 (1877) 年には、日本初の写真雑誌『寫眞雜誌』を刊行した。明治14 (1881) 年に東京の京橋三十間堀（現在の東京都中央区京橋）で開業すると共に乾板製造法も研究した。

本作は、この開業以前に制作された作例であり、非常に貴重な史料である。明治22 (1889) 年には、写真家・二見朝隈 (ふたみ・あさくま、1852–1908) と雑誌『写真新報』を創刊した。晩年は伊東に隠居。著書に『最近印画法』（明治30年、淺沼商会）があり、明治42 (1909) 年の増訂4版まで改訂版が継続して上梓された。

1-31 《野々村忠実像》 チャールズ・ド＝フォレスト・フレデリクス 万延元年 ダゲレオタイプ 69×57 東京都写真美術館

Portrait of Nonomura Tadazane Charles De Forest Fredricks 1860 / Daguerreotype / 69 × 57 Tokyo Photographic Art Museum

万延元（1860）年、日米修好通商条約の批准書交換のため、幕府による初めての遣外使節として米艦ポーハタン号で渡米した遣米使節団の一員で、副使村垣淡路守の用人であった野々村忠実の肖像である。撮影はニューヨークのブロードウェイ585番において盛業であったC. D. フレデリックス（1823-94）で、当時としては一般的なシックスプレート（2¼×3¼インチ、7×8.3 cm）と呼ばれるサイズのダゲレオタイプである。刀を手にした棒着用の立ち姿であるが、着物の合わせや刀の位置が正しい。鏡像になるダゲレオタイプで左右を正像にするためには、撮影前に着物や刀を逆にしたからである。嘉永7（1854）年のペリー艦隊のブラウン・ジュニアによる撮影の経験などから、左右逆に写るダゲレオタイプの特性は周知のことだったのであろう。

ダゲレオタイプは、1851年にコロディオン湿板方式が発表されると、ヨーロッパでは急速に使われなくなっていく。しかしアメリカではダゲレオタイプが好まれ、ヨーロッパよりも10年程度長く使用されたと言われる。本作はそれをよく示す最後期のダゲレオタイプの作例である。1860年当時、アメリカの写真スタジオでは、ダゲレオタイプとアンプロタイプ、そして鶏卵紙に焼付けた写真を選ぶことができ、実際に同人のアンプロタイプ写真も現存している。遣米使節でこれまでにダゲレオタイプが確認されているのは野々村のみであるが、使節一行は各地で写真に撮影されている。それらの経験や持ち帰られた写真は日本における写真の実用化に少なからず影響したと考えられるのである。

1-32 《第二回遣欧使節と外国人》 アントニオ・ベ아트 元治元年 鶏卵紙 105×63 明治大学図書館

Second Japanese Embassy in Egypt Antonio Beato 1864 / Albumen print / 105 × 63 Meiji University Library

文久3（1863）年末、徳川幕府はヨーロッパに向け第二回遣欧使節を派遣した。国内に攘夷の姿勢を示すための横浜鎖港談判使節であった。この名刺写真には、使節の正使・池田筑後守長発（中央）、副使・河津伊豆守祐邦（左）、目付・河田相模守熙（右）が外国人と共に写されている。当時エジプトのカイロで開業していたアントニオ・ベ아트（1835-1906）による撮影であり、アントニオは、文久3年春に來日し幕末から明治初年にかけて日本で活躍したフェリーチェ・ベアトの兄弟であった。

使節一行は、フランスの軍艦で上海やインドを

経由してスエズに着き、そこから陸路でカイロへ向かい、地中海を渡ってマルセイユに入っている。カイロでギザのピラミッドとスフィンクスを見学した際、スフィンクスの前で撮られた記念写真がよく知られているが、この写真の撮影者がアントニオ・ベ아트である。使節一行はその後パリに到着し、ナダール（1820-1910）のスタジオや自然史博物館の写真家フィリップ・ポトー（Jacques-Philippe Potteau, 1807-76）によって多くの写真が撮影されている。鎖港の折衝は目的を果たせず帰国するのであるが、彼らのフランスでの写真の体験は、他の使節団と同様、帰国後に日本の写真の実用化に寄与したであろうと考えられる。

1-33 《第二回遣欧使節 副使 河津祐邦》 ナダール 元治元年 鶏卵紙 298×224 東京都写真美術館

Portrait of Kawazu Sukekuni, vice-envoy of Second Japanese Embassy to Europe Nadar 1864 / Albumen print / 298 × 224 Tokyo Photographic Art Museum

1-34 《第二回遣欧使節 河津祐邦、池田長発、河田熙》 ナダール 元治元年 鶏卵紙 219×245 東京都写真美術館

Group portrait of Kawazu Sukekuni, Ikeda Nagaoki, Kawata Hiromu, members of Second Japanese Embassy to Europe Nadar 1864 / Albumen print / 219 × 245 Tokyo Photographic Art Museum

1-35 《第二回日本使節団（『ル・モンド・イリュストレ』第370号）》 1864年 銅版画 365×264 明治大学図書館

Second Japanese Embassy to Europe, Le Monde illustré, No. 370 1864 / Etching / 365 × 264 Meiji University Library

1-36 《出初式》 江崎礼二 明治18年頃 鶏卵紙 200×280 日本大学藝術学部

Dezomeshiki (*acrobatics on a ladder by firefighters*) Esaki Reiji c. 1885 / Albumen print / 200 × 280 Nihon University, College of Arts

この写真は明治18年（1885）頃に撮影されたと考えられるもので、明治期の出初式の記録は極めて

珍しい。一番組から拾番組まで各組の梯子の曲乗りのような、早い動きのある被写体が鮮明に写っていることから、近代的な感光材料である高感度のゼラチン乾板で撮影されたものであろう。

写真に撮影者を示す情報はないが、同年1月11日に発行された読売新聞に「○出初の写真・・・浅草公園地の写真師の親玉江崎礼二氏がドライプレートをもって各消防組の梯子乗の模様を写し取られしはいつもながら手際好ものにて是が同氏の今年早取写真の写し初・・・」とあり、初期のゼラチン乾板の使用を紹介するものとして興味深い。この江崎礼二（えさき・れいじ、1845-1910）は、写真術を下岡蓮杖他に学び、明治5（1872）年に浅草に開業した写真家で、多くの著名人の肖像写真でも知られる。とくに有名なのは考案されて間もない外国製のゼラチン乾板を日本でいち早く入手し使用したことである。江崎が明治16（1883）年に、隅田川で行われた海軍の水雷爆破実験の撮影を行ったのが、日本初のガラス乾板を用いた公開撮影である。江崎はそれまでの湿板写真では撮影ができない動きのある対象を高感度のドライプレートで撮影し、台紙に「早取写真師」と印刷して名を上げたのである。

1-37 《龍燈鬼 興福寺》 小川一真 明治21年 ゼラチン乾板 269×208 東京都写真美術館

Lantern with dragon and ogre, Kōfukuji temple Ogawa Kazumasa 1888 / Gelatin dry plate / 269 × 208 Tokyo Photographic Art Museum

ゼラチン乾板が可能にしたのは、瞬間撮影だけではない。コロディオン湿板方式では、原板に薬品を塗布し、乾かないうちに撮影を経て現像する必要がある。このため屋外ではカメラ機材だけでなく、ガラスと薬品、携帯用の暗室テントを持参して撮影が可能になった。これに対して、ゼラチン乾板では、工場で生産された原板と機材だけを持って屋外へ行くことができる。そして、撮影から時間を経て現像することもできる。この技術革新は、古刹やその仏像、宝物など繊細なものを撮影する場合にも力を発揮する。

明治21（1888）年、政府は宮内省に臨時全国宝物取調局を設置した。取調局は宝物調査事業を実施、近畿地方の古社寺宝物調査に小川一真が同行し、ゼラチン乾板を使用して撮影している。No. 1-37はこの時に撮影されたゼラチン乾板で、No. 1-38は原板から焼付けられたゼラチン・シルバー・プリントである。被写体は興福寺（奈良県奈良市）の龍燈鬼像。鎌倉時代再興期の西金堂須弥壇に安置されていた像で、仏前を照らす役目を与えられた鬼彫刻である。

No. 1-37をよく見ると朱色の線が大きく書き込みがなされている。そして、No. 1-38と比較すると被写体は同じだが、僅かに角度が異なることがわかる。ゼラチン乾板での撮影は、コロディオン湿板方式と違い、撮影することにのみ集中することができる。No. 1-37は、最終的に提出されたプリントの陰に未提出の原板があった事実を物語る史料である。

1-38 《龍燈鬼 興福寺》 小川一真 明治21年 ゼラチン・シルバー・プリント 269×208 東京都写真美術館

Lantern with dragon and ogre, Kōfukuji temple Ogawa Kazumasa 1888 / Gelatin silver print / 269 × 208 Tokyo Photographic Art Museum

1-39 《『増訂 最近印画法 諸印画紙製法ならびに使用法』》 深沢要橘 明治38年 書籍 190×135×21 日本大学藝術学部

Saikin Ingahō (*Handbook of Modern Printing Methods*) Fukazawa Yōkitsu 1905 / Printed material / 190 × 135 × 21 Nihon University, College of Arts

初期の写真化学者として知られ、明治10（1877）年の日本初の写真雑誌『写真雑誌』の刊行や、国産の乾板製造の試みなどでも知られる深沢要橘が編集した著作である。英米の諸製造会社や写真雑誌の所説に基づき、また著者が実際試して、最新の各種印画法を平易に解説しており、初版は明治30（1897）年である。逐次増補改訂され、明治42（1909）年の増訂4版まで継続して上梓された。明治10年代半ば以降、写真家の自製による湿板写真や鶏卵紙に代わり、近代的な工業生産によるゼラチン乾板や、その感光乳剤を応用したプロマイド印画紙、ゼラチン乳剤による塩化銀ゼラチン乳剤による焼出し印画紙（Printing out paper, P.O.P.）などが多用されるようになる。また加えて白金印画紙やカーボン印画紙など様々な技法も使用され、その技術解説のため写真雑誌や書籍が刊行される時代ともなっていた。

この『増訂再版 最近印画法』（第二編）で興味深いのは、市販製品としての焼出し印画紙や臭素紙（プロマイド現像印画紙）の使用法に先立って、それらの製法が丁寧に述べられていることである。また、少数ながら鶏卵紙の使用も継続していた時期であったためか、その製法や使用方法も述べられている。

発行元の浅沼商会は浅沼藤吉が明治4（1871）年に創業し、杉浦六右衛門が明治6（1873）年に創業した小西本店（小西六）と並ぶ代表的な写真材料商であった。

第二章 関東の写真家 Photographers of the Kantō Region

2-1 《木村政信像》 下岡蓮杖 文久2年 アンプロタイプ 81×69 東京都写真美術館

Portrait of Kimura Masanobu Shimooka Renjō 1862 / Ambrotype / 81 × 69 Tokyo Photographic Art Museum

2-2 《（甲冑姿の窪田仙太郎像）》 フェリーチェ・ベ아트 文久3-元治元年頃 鶏卵紙 87×55 東京都写真美術館

(*Kubota Sentarō in samurai armor*) Felice Beato c. 1863-64 / Albumen print / 87 × 55 Tokyo Photographic Art Museum

2-3 《焼き枠》 富重写真所復元 2007年 ガラス、鉄、木 350×430×65 個人蔵

Contact printing frame Tomishige Photographic Studio, Kumamoto 2007 / Glass, steel, wood / 350 × 430 × 65 Private collection

焼き枠とは、鶏卵紙などの印画紙とネガ原板を密着して焼付ける（印画する）ために使用する道具である。タルボットの発明したカロタイプの時代から使用されてきた形式で、ネガと印画紙を圧着する裏板は、露光の途中で両者の位置をずらすことなく画像濃度を確認できるよう、分割して開けることができる。

出品資料は、熊本県熊本市の富重写真館に伝来する史料を復元したものである。東京都写真美術館では平成30年に、この焼き枠を使用して明治初年の湿板ネガ原板（2-4）から、新たに鶏卵紙のプリント（2-5）を制作するプロジェクトを行った。このような技術の復元は今後重要性を増すものと考えられる。

2-4 《（外国御料理自由亭パレスホテル）》 堀内信重 明治初年 コロディオン湿板ネガ原板 245×298 個人蔵・東京都写真美術館管理

(*Western-style restaurant, Jiyū-tei, Palace Hotel*) Horiuchi Nobushige c. 1868-76 / Original negative, collodion wet process / 245 × 298 Private collection (entrusted to Tokyo Photographic Art Museum)

2-5 《（外国御料理自由亭パレスホテル）》 堀内信重 明治初年撮影／後年のプリント（2018年） 鶏卵紙 245×298 東京都写真美術館

(*Western-style restaurant, Jiyū-tei, Palace Hotel*) Horiuchi Nobushige c. 1868-76 (printed 2018) / Albumen print 245 × 298 Tokyo Photographic Art Museum

2-6 《コピーマスク》 エクセルシオール 紙、封筒/135×95、枠/1：127×88、2：120×88、3：125×87、4：126×87 横浜市民ギャラリーあざみ野

Copy masks Excelsior Paper, Envelope/135 × 95, Frame/1: 127 × 88, 2: 120 × 88, 3: 125 × 87, 4: 126 × 87 Yokohama Civic Gallery Azamino

肖像や風俗などの人物写真では、しばしば周縁を柔らかくぼかした画面の中に人物が浮かび上がる表現を行う。この表現のための道具が、ぼかし枠と呼ばれる光を遮るマスクである。撮影の場合は、カメラのレンズの前に楕円形か円形の穴を開けたぼかし枠を置く。穴の縁にビントが合わないよう枠はレンズの近くに設置する。No. 2-6や2-7のように、ぼかし効果を高めるため穴の周囲が鋸歯状になっている枠もある。白い枠を置き、枠に光を当てて撮影すれば画面の周囲は明るくなり、黒い枠で撮影すれば画面の周囲を暗くすることができる。

プリントの際には、穴の縁がシャープに焼付けられることが無いよう、印画紙に露光する際には枠を動かしながら行う。鶏卵紙のような印画紙に密着焼き付けを行う場合、No. 2-9のように、ぼかし枠を印画紙に重ねたネガから距離を置いて設置し、拡散した光で焼き付けを行うことで、画面の周縁をぼかすことができる。

画面の周縁をぼかす表現だけでなく、画面をはっきりとした楕円形や円形に作るということも行われる。No. 2-6のような各種の形の焼付用マスクである。焼付の際には印画紙に密着して設置し、動かさない状態で露光すれば、マスクの穴の形に画面を作ることができる。

2-7 《写真用ぼかし枠》 不詳 ガラス、布、木 126×75×4 横浜市民ギャラリーあざみ野

Vignetting mask Unknown

Glass, cloth, wood / 126 × 75 × 4

Yokohama Civic Gallery Azamino

2-8 《エンボス枠》 不詳　金属　180×130横浜市民ギャラリーあざみ野

Embossing frame Unknown / Metal / 180 × 130Yokohama Civic Gallery Azamino

2-9 《ぼかし枠》 不詳　金属　179×129×4横浜市民ギャラリーあざみ野

Vignetting mask Unknown / Metal / 179 × 129 × 4Yokohama Civic Gallery Azamino

2-10 《ぼかし枠》 不詳　ガラス、布、木　181×130×4横浜市民ギャラリーあざみ野

Vignetting mask Unknown / Glass, cloth, wood 181 × 130 × 4Yokohama Civic Gallery Azamino

2-11 《(花売り)》 日下部金兵衛 明治中期頃　鶏卵紙　207×270 日本大学藝術学部

(Flower vendor) Kusakabe Kinbee c. 1882–97 / Albumen print / 207 × 270 Nihon University, College of Arts

2-12 《(花売り)》 日下部金兵衛 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　201×239 日本大学藝術学部

(Flower vendor) Kusakabe Kinbee c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 201 × 239 Nihon University, College of Arts

2-13 《写真着彩用水彩絵の具》 オー・サカ 75×118×63 横浜市民ギャラリーあざみ野

Paints for hand coloring O.SAKA 75 × 118 × 63Yokohama Civic Gallery Azamino

2-14 《写真着彩用油彩絵の具》 ボシュロム 200×200×225 横浜市民ギャラリーあざみ野

Paints for hand coloring Bausch & Lomb 200 × 200 × 225Yokohama Civic Gallery Azamino

2-15 《(芸者像)》 ライムント・フォン・シュティルフリート 明治初期　鶏卵紙に手彩色　94×61 東京都写真美術館

(Portrait of a geisha) Raimund von Stillfried c. 1868–81 / Hand-colored albumen print 94 × 61 Tokyo Photographic Art Museum

2-16 《向島》 アドルフオ・ファルサーリ 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　201×260 日本大学藝術学部

Mukōjima Adolfo Farsari c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 201 × 260 Nihon University, College of Arts

2-17 《江戸のアメ리카合衆国公使館（善福寺）》 チャールズ・ウィード 慶応3–4年頃　鶏卵紙　433×538 日本大学藝術学部

U.S. Legation in Edo (Zenpukuji Temple) Charles Weed c. 1867–68 / Albumen print / 433 × 538 Nihon University, College of Arts

2-18 《東海道（モーザー本人と携帯暗室）》 ミヒャエル・モーザー 明治3–5年頃　鶏卵紙　134×193 日本大学藝術学部

Tōkaidō Road (Moser with his portable darkroom) Michael Moser c. 1870–72 / Albumen print / 134 × 193 Nihon University, College of Arts

2-19 《横須賀の日本人村風景　横須賀村と猿島》 レオン・ボエル 明治元年　鶏卵紙　227×289 横須賀市自然・人文博物館

View of the Japanese village at Yokosuka and Sarujima Léon Böelle 1868 / Albumen print / 227 × 289 Yokosuka City Museum

2-20 《(直垂長袴の武士)》 チャールズ・パーカー 文久3–元治2年頃　鶏卵紙　91×58 東京都写真美術館

(Samurai wearing formal kimono) Charles Parker c. 1863–65 / Albumen print / 91 × 58 Tokyo Photographic Art Museum

2-21 《水野半兵衛像》 日下部金兵衛 明治18–23年頃　鶏卵紙　93×58 東京都写真美術館

Portrait of Mizuno Hanbee Kusakabe Kinbee c. 1885–90 / Albumen print / 93 × 58 Tokyo Photographic Art Museum

2-22 《小笠原島父島ノ内二見港明治丸並英国軍艦カルー号碇泊ノ景》 松崎晋二 明治8年　鶏卵紙　60×90 東京都写真美術館

View of the Meiji-Maru and British warship stopped off Chichijima Island in the Ogasawara archipelago Matsuzaki Shinji 1875 / Albumen print / 60 × 90 Tokyo Photographic Art Museum

2-23 《岩倉具視像》 東京印刷局 明治12年　鶏卵紙　164×110 明治大学図書館

Portrait of Iwakura Tomomi Tokyo Printing Bureau 1879 / Albumen print / 164 × 110 Meiji University Library

2-24 《只木戊像》 江木松四郎 明治28年　鶏卵紙　84×58 東京都写真美術館

Portait of Tadaki Shigeru Egi Matsushirō 1895 / Albumen print / 84 × 58 Tokyo Photographic Art Museum

2-25 《(男性三人像)》 田中武 明治中期頃　ゼラチン・シルバー・プリント　88×60 東京都写真美術館

(Portrait of three men) Tanaka Takeshi c. 1882–97 / Gelatin silver print / 88 × 60 Tokyo Photographic Art Museum

2-26 《東京の上野》 玉村康三郎 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　190×248 日本大学藝術学部

Ueno, Tokyo Tamamura Kōzaburō c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 190 × 248 Nihon University, College of Arts

2-27 《第一期普通学部卒業生とヘボン》 鈴木真一 明治24年　鶏卵紙　375×481 明治学院歴史資料館

First graduating class of Meiji Gakuin with James Curtis Hepburn Suzuki Shin'ichi 1891 / Albumen print / 375 × 481 Meiji Gakuin Historical Museum

2-28 《江崎写真館》 江崎礼二 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　202×259 東京都写真美術館

Esaki Photographic Studio Esaki Reiji c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 202 × 259 Tokyo Photographic Art Museum

2-29 《四十二年度　文科卒業生》 宮内幸太郎 明治42年　ゼラチン・シルバー・プリント　220×280 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

Students of the 42nd graduating class, First Higher School of Japan, liberal arts majors Miyauchi Kōtarō 1909 / Gelatin silver print / 220 × 280 Komaba Museum, Graduate School of Arts and Sciences and College of Arts and Sciences, University of Tokyo

2-30 《中村米吉　妻志げ》 吉原秀雄 明治10年頃　アンブロタイプ　80×56 中村写真館

Nakamura Yonekichi and wife, Shige Yoshihara Hideo c. 1877 / Ambrotype / 80 × 56 Nakamura Photographic Studio

2-31 《ガラス写真〔竹城〕》 宇佐美竹城 明治初期　コロディオソ湿板ネガ原板　97×73 個人蔵

Self-portrait of Usami Chikujō Usami Chikujō c. 1872–82 / Collodion wet-plate negative 97 × 73 Private collection

2-32 《ガラス写真〔竹城〕》 宇佐美竹城 明治後期　ゼラチン乾板　107×82 個人蔵

Self-portrait of Usami Chikujō Usami Chikujō c. 1897–1912 / Gelatin dry plate / 107 × 82 Private collection

2-33 《全国書画名家集覧》 東京　開運堂 明治21年　墨刷木版　457×367 個人蔵

Zenkoku shogameika shūran (*Famous writers and painters of Japan*) Tokyo Kaiundō 1888 / Woodblock print / 457 × 367 Private collection

2-34 《(掲載名を間違えたことの謝罪)》 竹村貞二郎 明治21年　葉書　140×90 個人蔵

(apologizing for an error in a name) Takemura Sadajirō 1888 / Postcard / 140 × 90 Private collection

2-35 《納品袋》 片岡如松 明治38年　紙、インク 片岡写真館

Photographer's envelope Kataoka Joshō 1905 / Paper, ink Kataoka Photographic Studio

2-36 《片岡久米（のちの如松）像》 横山松三郎 明治2年頃　アンプロタイプ　101×75 片岡写真館

Portrait of Kataoka Kume (Kataoka Joshō) Yokoyama Matsusaburō c. 1869 / Ambrotype / 101 × 75 Kataoka Photographic Studio

2-37 《(男性胸像)》 小川一真 明治10–13年頃　鶏卵紙　99×58 行田市郷土歴史博物館

(Portrait of a man) Ogawa Kazumasa c. 1877–79 / Albumen print / 99 × 58 Gyoda City Museum

2-38 《豊田尚一像》 豊田尚一 明治中期頃　アンプロタイプ　110×84 千葉県文書館

Self-portrait of Toyoda Naohito Toyoda Naohito c. 1882–97 / Ambrotype / 110 × 84 Chiba Prefectural Archives

3-33 《(鎌倉・長谷大仏)》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　267×210 東京都写真美術館

(Great Buddha at Kamakura) Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 267 × 210 Tokyo Photographic Art Museum

3-34 《鎌倉大仏》日下部金兵衛 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　814×532 東京都写真美術館

Great Buddha at Kamakura Kusakabe Kinbee c.1882–97 / Hand-colored albumen print 814 × 532 Tokyo Photographic Art Museum

3-35 《(法被を着た女性)》日下部金兵衛 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　265×206 東京都写真美術館

(Woman wearing a happi) Kusakabe Kinbee c.1882–97 / Hand-colored albumen print 265 × 206 Tokyo Photographic Art Museum

3-36 《芦ノ湖の地蔵》フェリーチェ・ベアト 慶応年間　鶏卵紙　220×285 東京都写真美術館

Bronze Statue of Jeso Sama, Hakone Lake Felice Beato c.1865–68 / Albumen print / 220 × 285 Tokyo Photographic Art Museum

写真家としての優れた眼と技術、そして豊富な経験をもって幕末明治初年の日本の貴重な記録を撮影したフェリーチェ・ベアト（1834–1909）が来日したのは、文久3（1863）年春である。来日してすぐ横浜の外国人居留地にスタジオを構え、精力的に撮影を始める。撮影は外国人居留地から十里（約40 km）四方に設けられた外国人の遊歩区域が主な場所であった。また外交特権をもつ外交官とともに行動することで遊歩区域外の撮影も行っている。慶応3（1867）年にはオランダ総領事ポルスブルック（Dirk de Graeff van Polsbroek、1833-1916）一行の富士登山に同行して撮影を行っている。小田原から箱根、富士山周辺の写真はこの時に撮影されたものが多く、これらを含めベアトの主要な作品は幕末期に撮影されたものである。

ベアト撮影による芦ノ湖の延命地蔵は光背の円形が印象的で、篤い信仰の対象であることを示すため、手を合わせる人物が傍らに配されている。一方、ミヒヤエル・モーザー（1853–1912）が挿絵入英字新聞『ザ・ファー・イースト』のために撮影し

た延命地蔵（3-37）の制作年代は明治3（1870）年以降である。手を合わせる人物は配されているが、慶応4（1868）年の太政官布告「神仏分離令」による廃仏毀釈の影響で光背が無残に失われている。なお、当時の写真印画はネガ原板と印画紙を密着して焼付ける。つまり写真の大きさは、撮影されたネガ原板のサイズを示す。このため、No.3-36は四切判（10×12インチ、25.4×30.5 cm）程度のネガで撮影されたものであり、No.3-37は八切判（6½×8½インチ、16.5×21.6 cm）のネガから焼き付けられた写真をトリミングして小さくしたものであることがわかる。

3-37 《箱根芦ノ湖の延命地蔵》ミヒヤエル・モーザー 明治3年　鶏卵紙　91×132 日本大学藝術学部

Idol of Jeso Sama, Lake Hakone Michael Moser 1870 / Albumen print / 91 × 132 Nihon University, College of Arts

3-38 《箱根神社参道》フェリーチェ・ベアト 慶応年間　鶏卵紙　270×245 東京都写真美術館

Avenue of Trees, 120 feet High and Temple of Hakone Felice Beato c.1865–68 / Albumen print / 270 × 245 Tokyo Photographic Art Museum

3-39 《芦ノ湖「箱根」アルバムより》日下部金兵衛 明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　295×343×40 日本大学藝術学部

View of Hakone Lake, from “Hakone” album Kusakabe Kinbee c.1882–97 / Hand-colored albumen print 295 × 343 × 40 Nihon University, College of Arts

3-40 《東海道厚木市東町付近》フェリーチェ・ベアト 慶応年間　鶏卵紙　203×293 東京都写真美術館

Tōkaidō at Atsugi Felice Beato c.1865–68 / Albumen print / 203 × 293 Tokyo Photographic Art Museum

3-41 《海側から見た製鉄所全景》レオン・ボエル？ 慶応2–3年頃　鶏卵紙　228×288 横須賀市自然・人文博物館

Yokosuka shipyard, as seen from the sea Léon Böelle ? c.1866–67 / Albumen print / 228 × 288 Yokosuka City Museum

3-42 《(横須賀製鉄所)》レオン・ボエル？ 明治元年　鶏卵紙　229×289 横須賀市自然・人文博物館

(Yokosuka Arsenal) Léon Böelle ? 1868 / Albumen print / 229 × 289 Yokosuka City Museum

3-43 《横須賀製鉄所全景》レオン・ボエル？ 明治元年頃　鶏卵紙　227×287 横須賀市自然・人文博物館

Yokosuka Arsenal Léon Böelle ? c.1868 / Albumen print / 227 × 287 Yokosuka City Museum

3-44 《製鉄所一般首長住居ヨリ望見之真図》レオン・ボエル？ 明治初年　鶏卵紙　316×974 横須賀市自然・人文博物館

Yokosuka Arsenal, view from director's residence Léon Böelle ? c.1868–76 / Albumen print / 316 × 974 Yokosuka City Museum

3-45 《横須賀製鉄所》レオン・ボエル？ 明治初年　鶏卵紙に手彩色　260×340 明治大学図書館

Yokosuka Arsenal Léon Böelle ? c.1868–76 / Hand-colored albumen print 260 × 340 Meiji University Library

3-46 《横須賀製鉄所》レオン・ボエル？ 明治初年　鶏卵紙　300×360 明治大学図書館

Yokosuka Arsenal Léon Böelle ? c.1868–76 / Albumen print / 300 × 360 Meiji University Library

3-47 《借楽園好文亭奥御殿、南崖、南門の桜川に架かる橋》宇佐美竹城 明治初年　鶏卵紙　64×105 個人蔵

Kairakuen garden, bridge over the Sakuragawa River at south gate Usami Chikujō c.1869–76 / Albumen print / 64 × 105 Private collection

3-48 《仙波湖、南に延びる新々道（国道50号と接続する旧6号の原型）》宇佐美竹城 明治初年　鶏卵紙　65×105 個人蔵

Senba Lake and new road to the south Usami Chikujō c.1868–76 / Albumen print / 65 × 105 Private collection

3-49 《(仙波湖、左端に柳堤につながる道か)》宇佐美竹城 明治初年　鶏卵紙　63×103 個人蔵

(Senba Lake, path to the Yanagi-tei on the left) Usami Chikujō c.1868-76 / Albumen print / 63 × 103 Private collection

3-50 《水戸城大手門、人力車と2人》宇佐美竹城 明治初年　鶏卵紙　63 × 105 個人蔵

Ōtemon gate at Mito Castle, 2 men and arickshaw Usami Chikujō c.1868–76 / Albumen print / 63 × 105 Private collection

3-51 《宇佐美かね（竹城孫）、森内とし子》松本信夫 明治30年　鶏卵紙　107×66 個人蔵

Usami Kane (Chikujō's granddaughter) and Moriuchi Toshiko Matsumoto Nobuo 1897 / Albumen print / 107 × 66 Private collection

3-52 《明治20年撮影　皆既日食写真》宇佐美竹城 明治20年　鶏卵紙　104×63 個人蔵

Photographs of the eclipse of the sun in 1887 Usami Chikujō 1887 / Albumen print / 104 × 63 Private collection

3-53 《水戸之士 板橋直虎、岡山之士 萩野末吉》不詳 明治10年　アンプロタイプ　95×73 東京都写真美術館

Itabashi Naotora, samurai of Mito, and Hagino Suekichi, samurai of Okayama Unknown 1877 / Ambrotype / 95 × 73 Tokyo Photographic Art Museum

3-54 《千葉神社祭》田村写真館？ 明治44年　ゼラチン・シルバー・プリント　90×110 千葉県文書館

Festival of Chiba Shrine T. Tamura Chemist & Perfumer 1911 / Gelatin silver print / 90×110 Chiba Prefectural Archives

3-55 《豊田照雄 肖像写真》豊田尚一 明治30年　ゼラチン乾板　108×81 千葉県立文書館

Portrait of Toyoda Teruo Toyoda Naohito 1897 / Gelatin dry plate / 108 × 81 Chiba Prefectural Archives

3-56 《豊田照雄 肖像写真》豊田尚一 明治30年　鶏卵紙　108×65 千葉県立文書館

Portrait of Toyoda Teruo Toyoda Naohito 1897 / Albumen print / 108 × 65 Chiba Prefectural Archives

3-57 《豊田照雄 肖像写真》豊田尚一 明治30年　ゼラチン乾板　108×82 千葉県立文書館

Portrait of Toyoda Teruo Toyoda Naohito 1897 / Albumen print / 108 × 65 Chiba Prefectural Archives

3-58 《豊田照雄 肖像写真》豊田尚一 明治30年　鶏卵紙　108×65 千葉県立文書館

Portrait of Toyoda Teruo Toyoda Naohito 1897 / Gelatin dry plate / 108 × 82 Chiba Prefectural Archives

3-59 《成田山不動》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　98×142 東京都写真美術館

Narita-san Fudō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 98 × 142 Tokyo Photographic Art Museum

3-60 《成田山不動》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　99×144 東京都写真美術館

Narita-san Fudō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 98 × 142 Tokyo Photographic Art Museum

3-61 《日光 中禪寺》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　93×139 東京都写真美術館

Narita-san Fudō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 99 × 144 Tokyo Photographic Art Museum

3-62 《日光 東照宮 東御門》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　93×139 東京都写真美術館

Chūzenji temple, Nikkō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 93 × 139 Tokyo Photographic Art Museum

3-63 《日光 東照宮 奥院》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　91×138 東京都写真美術館

Oku-in at Tōshōgū Shrine, Nikkō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 91 × 138 Tokyo Photographic Art Museum

3-64 《日光 東照宮 二天門》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　94×140 東京都写真美術館

Oku-in at Tōshōgū Shrine, Nikkō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 91 × 138 Tokyo Photographic Art Museum

3-65 《日光 東照宮 仁王門》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　91×141 東京都写真美術館

Niōmon gate, Tōshōgū, Nikkō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 91 × 141 Tokyo Photographic Art Museum

3-66 《日光 東照宮 三王門》内田九一 明治5–8年頃　鶏卵紙　91×141 東京都写真美術館

Niōmon gate, Tōshōgū, Nikkō Uchida Kuichi c.1872–75 / Albumen print / 91 × 141 Tokyo Photographic Art Museum

3-66 《陽明門》	<i>Panorama of Edo from Atagoyama Hill (North)</i>
アドルフオ・ファルサーリ	Felice Beato
明治20年頃　鶏卵紙に手彩色　194×243	1863 / Albumen print / 229 × 554
東京都写真美術館	Nihon University, College of Arts
	
<i>Yōmeimon, gate to Ieyasu's grave</i>	3-72 《江戸愛宕神社の鳥居と男坂》
Adolfo Farsari	フェリーチェ・ベアト
c. 1887 / Hand-colored albumen print	文久3年　鶏卵紙　237×282
194 × 243	東京都写真美術館
Tokyo Photographic Art Museum	

3-67 《定願寺》	<i>Torii gate and Otoko-zaka steps, Atago shrine at Edo</i>
片岡如松	Felice Beato
明治12年頃　コロディオン湿板ネガ原板	1863 / Albumen print / 237 × 282
113 × 150	Tokyo Photographic Art Museum
片岡写真館	

<i>Jōganji Temple</i>	3-73 《〈足場を組んだニコライ教会堂〉》
Kataoka Joshō	田中武あるいは江崎礼二
c. 1879 / Original negative, collodion wet process / 113 × 150	明治22年　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490
Kataoka Photographic Studio	東京都写真美術館

3-68 《上州の大渡村の景色》	<i>(Nikolai Cathedral in scaffolding)</i>
日下部金兵衛	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　206×264	1889 / Gelatin silver print / 490 × 490
日本大学藝術学部	Tokyo Photographic Art Museum

<i>Scenery in Ōwatari village, Jōshū</i>	3-74 《『明治二十一年撮影　全東京展望写真帖』》
Kusakabe Kinbee	大塚巧芸社
c. 1882–97 / Hand-colored albumen print	昭和7年　書籍　555×456×35
206 × 264	東京都写真美術館
Nihon University, College of Arts	

3-69 《大宮》	<i>Album of views of Tokyo photographed in 1888</i>
不詳	Ōtsuka Kōgeisha
明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　203×263	1932 / Printed material / 555 × 456 × 35
日本大学藝術学部	Tokyo Photographic Art Museum

<i>Ōmiya</i>	本書は写真を差し込む折丁形式の写真帖として昭和7年（1932）に発行された。No. 3-75からNo. 3-87は、ここに収録される13枚の画面で構成されるパノラマ写真である。このパノラマは、同様に収録される建設中のニコライ堂の足場（3-73）から360度見渡した東京の町並みが写されている。本書の冒頭ページで、工学博士・大熊喜邦の序文や工学博士・堀越三郎の解説と共に、どの写真がどの向きに撮影されたかを示す方位図が収録されている（パネル参照）。また、解説によると、男爵・岩崎小彌太家が所蔵するオリジナルを大塚巧藝社の主人が同じサイズに複製したとある。なお、撮影者については不明点が多く、田中武と江崎礼二の二名をそれぞれ別の新聞が伝えている。
Unknown	文久3（1863）年のフェリーチェ・ベアトによって制作された江戸のパノラマ（3-71）では、増上寺から江戸城、お台場まで見渡せるが、これを撮影した愛宕山の標高は25.7メートルである。対して、このパノラマが撮影され、明治24年（1891）に竣工したニコライ堂の大きなドームの高さは35メートル、鐘楼の高さは37.7メートルである。加えて、神田駿河台に位置するため高台の上に建っている。本書に収録されるパノラマ写真は、この建設中の足場から撮影しており、No. 3-71よりも
c. 1882–97 / Hand-colored albumen print	
203 × 263	
Nihon University, College of Arts	

3-70 《愛宕山から見た江戸のパノラマ（東方）》	<i>No. 1 (North) View towards Ikenohata Kaya-machi, overlooking Tokyo Normal School</i>
フェリーチェ・ベアト	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
文久3年　鶏卵紙　213×1502	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

<i>Panorama of Edo from Atagoyama Hill (East)</i>	<i>No. 2 (North-NW) View towards Yayoi Maruyama, overlooking Tokyo Normal School</i>
Felice Beato	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
1863 / Albumen print / 213 × 1502	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
Tokyo Photographic Art Museum	Tokyo Photographic Art Museum

3-71 《愛宕山からのパノラマ（北方）》	<i>No. 3 (West-NW) View of Kōrakuen and munitions factory, overlooking Kanda River</i>
フェリーチェ・ベアト	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
文久3年　鶏卵紙　229×554	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
日本大学藝術学部	Tokyo Photographic Art Museum

10メートル以上高い位置から明治20年代初頭の東京をぐるりと俯瞰した写真である。なお、本書名には明治21年撮影とあるが、撮影時期の新聞記事から明治22（1889）年1月の撮影であることがわかっている。また、本書が縦書きである関係から、掲載順に作品番号を付したが、画面の繋がりを優先して13番から1番に向けて逆の順番で展示している。	<i>No. 4 (West) View towards Iida-machi, overlooking Misaki-chō military practice field</i>
なお、本パノラマ写真については井桜直美氏による論考（本展図録所収）に詳しい。	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
	Tokyo Photographic Art Museum

3-79 《第五　西方　駿河台南甲賀町より神保町を隔てゝ九段番町を望む》	<i>No. 5 (West) View towards Kudan, overlooking Jinbōchō</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-75 《第一　北方　東京高等師範学校を隔てゝ池の端茅町方面を望む》	<i>No. 5 (West) View towards Kudan, overlooking Jinbōchō</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-75 《第一　北方　東京高等師範学校を隔てゝ池の端茅町方面を望む》	<i>No. 1 (North) View towards Ikenohata Kaya-machi, overlooking Tokyo Normal School</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-76 《第二　北北西　高等師範学校を隔てゝ弥生岡本郷丸山方面を望む》	<i>No. 1 (North) View towards Ikenohata Kaya-machi, overlooking Tokyo Normal School</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-76 《第二　北北西　高等師範学校を隔てゝ弥生岡本郷丸山方面を望む》	<i>No. 2 (North-NW) View towards Yayoi Maruyama, overlooking Tokyo Normal School</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-76 《第二　北北西　高等師範学校を隔てゝ弥生岡本郷丸山方面を望む》	<i>No. 2 (North-NW) View towards Yayoi Maruyama, overlooking Tokyo Normal School</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-77 《第三　西北西　駿河台鈴木町一帯より神田川を隔てゝ砲兵工廠後楽園を望む》	<i>No. 2 (North-NW) View towards Yayoi Maruyama, overlooking Tokyo Normal School</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-77 《第三　西北西　駿河台鈴木町一帯より神田川を隔てゝ砲兵工廠後楽園を望む》	<i>No. 3 (West-NW) View of Kōrakuen and munitions factory, overlooking Kanda River</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-77 《第三　西北西　駿河台鈴木町一帯より神田川を隔てゝ砲兵工廠後楽園を望む》	<i>No. 3 (West-NW) View of Kōrakuen and munitions factory, overlooking Kanda River</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-78 《第四　西方　駿河台袋町猿楽町より三崎町練兵場を隔てゝ飯田町方面を望む》	<i>No. 3 (West-NW) View of Kōrakuen and munitions factory, overlooking Kanda River</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-78 《第四　西方　駿河台袋町猿楽町より三崎町練兵場を隔てゝ飯田町方面を望む》	<i>No. 4 (West) View towards Iida-machi, overlooking Misaki-chō military practice field</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-83 《第九　南東　佐柄木町を越えて日本橋方面を望む》	<i>No. 4 (West) View towards Iida-machi, overlooking Misaki-chō military practice field</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-83 《第九　南東　佐柄木町を越えて日本橋方面を望む》	<i>No. 9 (SE) View towards Nihonbashi and Saeki-chō</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-84 《第十　東南東　連雀町を越えて浜町、両国方面を望む》	<i>No. 9 (SE) View towards Nihonbashi and Saeki-chō</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-84 《第十　東南東　連雀町を越えて浜町、両国方面を望む》	<i>No. 10 (East-SE) View towards Hama-chō and Ryōgoku</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-84 《第十　東南東　連雀町を越えて浜町、両国方面を望む》	<i>No. 10 (East-SE) View towards Hama-chō and Ryōgoku</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-85 《第十一　東方　万世橋秋葉原を越えて浅草鳥越方面を望む》	<i>No. 10 (East-SE) View towards Hama-chō and Ryōgoku</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-85 《第十一　東方　万世橋秋葉原を越えて浅草鳥越方面を望む》	<i>No. 11 (East) View towards Asakusa Torigoe, overlooking Akihabara and the Manseibashi bridge</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-86 《第十二　東北東　松住町、旅籠町を越えて下谷浅草方面を望む》	<i>No. 11 (East) View towards Asakusa Torigoe, overlooking Akihabara and the Manseibashi bridge</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-86 《第十二　東北東　松住町、旅籠町を越えて下谷浅草方面を望む》	<i>No. 12 (East-NE) View towards Shitaya Asakusa, overlooking Hatago-chō</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-87 《第十三　北北東　湯島聖堂、神田神社を越えて浅草、上野方面を望む》	<i>No. 13 (North-NE) View towards Ueno, overlooking Yushima Shrine and Kanda Shrine</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-87 《第十三　北北東　湯島聖堂、神田神社を越えて浅草、上野方面を望む》	<i>No. 13 (North-NE) View towards Ueno, overlooking Yushima Shrine and Kanda Shrine</i>
田中武あるいは江崎礼二	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
明治22年撮影／昭和7年制作　ゼラチン・シルバー・プリント　490×490	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

3-88 《江戸三田の綱坂》	<i>No. 13 (North-NE) View towards Ueno, overlooking Yushima Shrine and Kanda Shrine</i>
フェリーチェ・ベアト	Tanaka Takeshi or Esaki Reiji
文久3年　鶏卵紙　210×287	Photographed 1889/Printed 1932 / Gelatin silver print / 490 × 490
東京都写真美術館	Tokyo Photographic Art Museum

<i>Mita Tsunasaka in Edo</i>	3-88 《江戸三田の綱坂》
Felice Beato	フェリーチェ・ベアト
1863 / Albumen print / 210 × 287	文久3年　鶏卵紙　210×287
Tokyo Photographic Art Museum	東京都写真美術館

3-89 《日本橋》	<i>Mita Tsunasaka in Edo</i>
ミヒャエル・モーザー	Felice Beato
明治5年　鶏卵紙　115×193	1863 / Albumen print / 210 × 287
日本大学藝術学部	Tokyo Photographic Art Museum

3-89 《日本橋》	<i>Nihonbashi</i>
ミヒャエル・モーザー	Michael Moser
明治5年　鶏卵紙　115×193	1872 / Albumen print / 115 × 193
日本大学藝術学部	Nihon University, College of Arts

3-90 《尾張藩上屋敷》	<i>Edo residence of the lord of the Owari domain</i>
ミヒャエル・モーザー	Michael Moser
明治3–5年頃　鶏卵紙　113×190	c. 1870–72 / Albumen print / 113 × 190
日本大学藝術学部	Nihon University, College of Arts

3-90 《尾張藩上屋敷》	<i>Edo residence of the lord of the Owari domain</i>
ミヒャエル・モーザー	Michael Moser
明治3–5年頃　鶏卵紙　113×190	c. 1870–72 / Albumen print / 113 × 190
日本大学藝術学部	Nihon University, College of Arts

3-91 《東京外務省》	<i>Foreign office, Tokyo</i>
ミヒャエル・モーザー	Michael Moser
明治6年　鶏卵紙　93×134	1873 / Albumen print / 93 × 134
日本大学藝術学部	Nihon University, College of Arts

3-92 《皇居の蓮池濠》	<i>Foreign office, Tokyo</i>
日下部金兵衛	Michael Moser
明治中期頃　鶏卵紙に手彩色　194×258	1873 / Albumen print / 93 × 134
日本大学藝術学部	Nihon University, College of Arts

Tokyo Castle Wall and Lotus Pond Kusakabe Kinbee c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 194 × 258 Nihon University, College of Arts

3-93 《(東京・芝増上寺・七代将軍総門)》内田九一 明治5–8年頃 鶏卵紙 205×266 東京都写真美術館

(Gate for the mausoleum of the seventh shogun Ietsugu, Zōjōji Temple in Shiba, Tokyo) Uchida Kuichi c. 1872–75 / Albumen print / 205 × 266 Tokyo Photographic Art Museum

3-94 《東京、浅草》ミヒヤエル・モーザー 明治初年 鶏卵紙 133×92 日本大学藝術学部

Asakusa, Tokyo Michael Moser c. 1868–76 / Albumen print / 133 × 92 Nihon University, College of Arts

3-95 《東京浅草の多層塔》日下部金兵衛 明治中期頃 鶏卵紙に手彩色 267×196 日本大学藝術学部

Pagoda, Asakusa, Tokyo Kusakabe Kinbee c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 267 × 196 Nihon University, College of Arts

3-96 《東京向島》不詳 明治中期頃 鶏卵紙に手彩色 204×264 東京都写真美術館

Mukōjima, Tokyo Unknown c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 204 × 264 Tokyo Photographic Art Museum

3-97 《東京上野の茶屋》日下部金兵衛 明治中期頃 鶏卵紙に手彩色 199×256 日本大学藝術学部

Teahouse at Ueno, Tokyo Kusakabe Kinbee c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 199 × 256 Nihon University, College of Arts

3-98 《東京、上野》玉村康三郎・騎兵衛 明治中期頃 鶏卵紙に手彩色 197×250 東京都写真美術館

Ueno, Tokyo Tamamura Kōzaburō, Kihee c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 197 × 250 Tokyo Photographic Art Museum

3-99 《東京印刷局「東京」アルバムより》日下部金兵衛 明治中期頃 鶏卵紙に手彩色 203×263 日本大学藝術学部

Tokyo Printing Bureau from “Tokio” Album Kusakabe Kinbee c. 1882–97 / Hand-colored albumen print 203 × 263 Nihon University, College of Arts

3-100 《井深梶之助、ウィリアム・インブリーと神学部生》日下部金兵衛 明治20年 鶏卵紙 350×428 明治学院歴史資料館

Ibuka Kajinosuke and William Imbrie with divinity school students Kusakabe Kinbee 1887 / Albumen print / 350 × 428 Meiji Gakuin Historical Museum

3-101 《憲法發布式生徒整列撮影ノ圖 三枚ノ内》鈴木捲雲 明治23年 鶏卵紙 358×427 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

Students lined up for constitution promulgation ceremony, 1 of 3 Suzuki Ken'un 1890 / Albumen print / 358 × 427 Komaba Museum, Graduate School of Arts and Sciences and College of Arts and Sciences, University of Tokyo

3-102 《ヘボン館》江崎礼二 明治20–21年頃 鶏卵紙 385×487 明治学院歴史資料館

Hepburn Hall, Meiji Gakuin University Esaki Reiji c. 1887–88 / Albumen print / 385 × 487 Meiji Gakuin Historical Museum

3-103 《サンダム館》江崎礼二 明治20–21年頃 鶏卵紙 333×418 明治学院歴史資料館

Sandham Hall, Meiji Gakuin University Esaki Reiji c. 1887–88 / Albumen print / 333 × 418 Meiji Gakuin Historical Museum

3-104 《井深梶之助、ガイド・フルベッキと神学部生》田中武 明治28年 鶏卵紙 350×429 明治学院歴史資料館

Ibuka Kajinosuke and Guido Verbeck with dinity school students Tanaka Takeshi 1895 / Albumen print / 350 × 429 Meiji Gakuin Historical Museum

3-105 《(短艇部)》江木松四郎 明治15年 鶏卵紙 215×270 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

(Rowing team) Egi Matsushirō 1882 / Albumen print / 215 × 270 Komaba Museum, Graduate School of Arts and Sciences and College of Arts and Sciences, University of Tokyo

3-106 《明治四十五年五月十四日独法科卒業生記念撮影》江木松四郎 明治45年 ゼラチン・シルバー・プリント 63×105 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

Graduates of German Law Department, May 14, 1912 Egi Matsushirō 1912 / Gelatin silver print / 63 × 105 Komaba Museum, Graduate School of Arts and Sciences and College of Arts and Sciences, University of Tokyo

3-107 《(野球部集合写真)》鈴木真一 明治30年 鶏卵紙 361×444 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部 駒場博物館

(Group photograph of baseball team) Suzuki Shin'ichi 1897 / Albumen print / 361 × 444 Komaba Museum, Graduate School of Arts and Sciences and College of Arts and Sciences, University of Tokyo

3-108 《東海道、原町田》フェリーチェ・ベ아트 慶応4年 鶏卵紙 203×293 東京都写真美術館

Haramachida, Tōkaidō road Felice Beato 1868 / Albumen print / 203 × 293 Tokyo Photographic Art Museum

3-109 《六郷川の杭打》ミヒヤエル・モーザー 明治6年 鶏卵紙 92×133 日本大学藝術学部

Piling on the Rokugō River Michael Moser 1873 / Albumen print / 92 × 133 Nihon University, College of Arts

3-110 《小笠原島父島ノ内清瀬海亀囲置場ノ景》松崎晋二 明治8年 鶏卵紙 60×90 東京都写真美術館

Turtle pens at Kiyose, Chichijima, Ogasawara Islands Matsuzaki Shinji 1875 / Albumen print / 60 × 90 Tokyo Photographic Art Museum

3-111 《小笠原島母島ノ内沖村海亀遺甲並豚囲》松崎晋二 明治8年 鶏卵紙 60×93 東京都写真美術館

Mound of turtle shells and pig pen at Okimura, Hahajima, Ogasawara Islands Matsuzaki Shinji 1875 / Albumen print / 60 × 93 Tokyo Photographic Art Museum

3-112 《日本風景風俗写真帖》小川一真（発行：鉄道院） 明治43年以前 コロタイプアルバム 280×390×45 明治学院歴史資料館

Sights and Scenes in Fair Japan (album) Ogawa Kazumasa, published by Imperial Government Railways Before 1910 / Collotype album 280 × 390 × 45 Meiji Gakuin Historical Museum

3-113 《中央停車場建築》宮内幸太郎 明治44年 ゼラチン・シルバー・プリント 358×536 横須賀市自然・人文博物館

Construction of Tokyo Station Miyauchi Kōtarō 1911 / Gelatin silver print / 358 × 536 Yokosuka City Museum

明治44（1911）年7月19日、鉄骨工事終了間近の東京駅を撮影した写真。東京駅は関西方面への起点であった新橋駅と、中仙道方面への起点であった上野駅を結び、その中間に中央停車場を作るという明治21（1888）年の東京市の構想から出発し、当時の建築界の重鎮・辰野金吾（たつの・きんご、1854–1919）の設計で、明治33（1900）年に着工、大正3（1914）年に竣工した。写真は明治44年9月の鉄骨工事完成を目前にした頃の貴重な記録である。

宮内幸太郎（みやうち・こうたろう、1872–1939）は千葉銚子の出身で明治21年、横山松三郎門下の中島待乳（なかじま・まつち、1850–1938）に弟子入りし、明治31（1898）年に本郷区湯島天神町に開業した。明治34（1901）年には実業界の写真家愛好家を中心として東洋写真会を結成し、展覧会を開催するなどしてアマチュア写真家の指導も行った。大正4（1915）年に東京美術学校に臨時写真科が設置されると講師となり、また東京写真組合副組合長なども歴任した。

本作は大判のゼラチン乾板を使って撮影され、密着焼付けではあるが、鶏卵紙でなくゼラチン・シルバー・プリントが使われている。明治末、第一次世界大戦の始まる年であり、大正という新たな時代を迎えようとする年でもある。東京駅はこの

凡例	<div> <div><div>作品図版は、以下の順で情報を付与した。</div></div> <ul style="list-style-type: none">– 展覧会出品番号（章番号-作品番号）– 作品名あるいは資料名 <ul style="list-style-type: none">※（ ）で記載されたものは題不詳のため適宜名称を与えたことを示す。– 制作者名– 制作年 <ul style="list-style-type: none">※ 制作年不詳のものは、できる限りこの期間を同定し、末尾に「頃」を加えた。– 素材技法– サイズ <ul style="list-style-type: none">※ 平面作品はイメージサイズを記載した。 ※ 表記は縦×横（×高さ）の順とし、単位はミリメートルで記した。– 所蔵 <ul style="list-style-type: none">※ 展覧会出品番号は本展図録の掲載番号と対応している。 ※ No. 62は都合により出品とりやめとなったため、欠番とした。 </div>
----	---

Note
Captions list information in the following order:
Section number-exhibit number; title of exhibit (when original title is in English, provided as faithfully as possible); name of photographer/artist; date (when not known, an estimate is given and noted as such); materials/methods; dimensions (in millimeters), length x width x (height); collection.

— Exhibit numbers correspond to numbers in the exhibition catalog.
— 62 is omitted from the list because that exhibit is not on view.

後の関東大震災でも大きな被害を受けることなく新しい時代のなかで国の中央停車場としての役割を果たしていく。そして、日本の写真界も明治から大正へと時代が移ると共に、芸術的な表現への志向が大きく隆盛していく節目の時期であった。

3-114 《第二回全国写真師大会記念撮影》宮内幸太郎 明治44年 コロタイプ印刷 205×278 東京都写真美術館

Commemorative photograph, Second National Photographers' Assembly Miyauchi Kōtarō 1911 / Collotype printing / 205 × 278 Tokyo Photographic Art Museum

日本初期写真史 関東編クイズ

Exhibition Quiz

以下の質問に○か×にチェックを入れてお答え下さい。

記入が終わりましたら、2Fミュージアムショップにお声がけください。満点の方には特製ポストカードを進呈致します。

本展覧会は、当日の再入場ができます。

Answer the following questions, marking them True or False.

When you're finished, take your quiz to the 2F museum shop. If you answer all correctly, we'll give you special postcard!

You can return to the exhibition by showing your ticket stub. (Same-day only)

	 True	 False
1. 世界で初めて写真術が公開されたのは、1839年である。 ヒントは1章に! The first photographic method was announced in 1839. (Hint in the first section!)	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
2. 日本人による最古の写真館は江戸(東京)で開業した。 ヒントは2章に! The first photographic studio opened by a Japanese was in Edo (Tokyo). (Hint in the second section!)	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
3. 鶏卵紙に使用されているのは、卵の黄身である。 ヒントは1章に! Albumen paper is made with egg yolks. (Hint in the first section!)	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
4. 幕末期は、愛宕山からお台場が見えた。 ヒントは3章に! In the Edo period, you could see Odaiba from Atagoyama. (Hint in the third section!)	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
5. 茨城で最初の写真家は宇佐美竹城である。 ヒントは2章に! The first photographer to open a studio in Ibaraki was Usami Chikujō. (Hint in the second section!)	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>